

インドネシアのチアチア族への ハングル文字普及について

巖 廷 美

1. はじめに

2009年8月6日、訓民正音学会がインドネシア東部のブトン（Buton）島のバウバウ市（Kota Baubau）に住み、音声言語はあるが表記文字を持たなかった少数民族のチアチア（Cia-Cia）族が、韓国語の固有文字であるハングルを民族語のチアチア語（Bahasa Cia-Cia）を表記する公式文字として選定したと発表した。この発表とほぼ同時にチアチア族にハングルが教えられるようになった。韓国語の固有文字であるハングルが他の民族の公式表記文字として導入されたのはハングルが制定された1443年以来初めてのことであった。また、ローマ字以外の文字が他民族の表記文字として採用されたことは、韓国の言語歴史上はもちろんのこと言語学的にも注目に値する出来事であったことは言うまでもない。

特に韓国のメディアは一斉にこの出来事を大々的に報道し、ハングル文字の合理性と科学性を再認識するきっかけにもなった。ソウル市や政府（文化体育観光部）もチアチア族が住むバウバウ市に積極的な経済のおよび文化的支援を約束するなど、ハングル文字普及を成功させるために角界からの支援の声が示された。

しかし、今年2012年のハングル創制記念日の10月9日を前後して、バウバウ市にある有一の韓国語教育機関である「세종학당（世宗学堂）」が8月31日に完全に撤収したとのニュースが各種新聞紙面を賑わすようになった。チアチア族がハ

ングルを採択し、教育してから3年目のことである。

そこで、本稿では、チアチア族にハングルが採択されるようになった経緯やこれまでの韓国語教育の現状を調べ、異民族へのハングル普及の過程での問題点などについて、ハングル文字伝達・普及の主体としての自己検討の観点から考えてみる。そうすることによってこれからのチアチア族へのハングルおよび韓国語教育のあるべき姿が自ずと見えてくるだろう。チアチア族へのハングル普及は最近の出来事で先行研究はあまり行われておらず、事実確認のための資料は主に新聞などメディア資料によるものであることを断っておきたい。

2. チアチア族とハングル

2.1 チアチア族とチアチア語

インドネシア全島には約1000以上の種族が住んでおり、民族語は700以上とされている。チアチア族はインドネシア東南部のスラウェシ州に位置するブトン島のバウバウ市に住む人口6万人超とされる少数民族である。バウバウ市を中心に分散して暮らしているが、市の南部にあるソラウォリオ（Sorawaolio）地域に最も多くの人口が集まっている。チアチア族はバウバウ市内に住むほかの少数民族と同様、民族の言葉を表記する固有の文字を持っていなかった。そのため、チアチア族の歴史や文化などについての書物や記録が残っていないという。チアチア語はインドネシアのほかの地方語と同じように死滅の危機に瀕している少数民族の言語で、日常的な意思疎通よりは宗教儀式や芸術公演など、チアチア族の伝統的な文化行事に主に使用される言語である（全2011）。現在、6万を超すチアチア族の中でチアチア語の使用者は、表1で見ると人口の1割にも満たないのが現状である。特にチアチア語の主な使用者は老年層の人々であり、若年層はインドネシア語で教育を受けているので、インドネシア語しかできない場合がほとんどである。この現状を考えるとチアチア語の死滅の可能性は高いと言える。

表1 チアチア語使用者分布 (金 2012)

町の名前	使用者数
カルヤ バル (karya Baru)	1,815名
ブギ (Bugi)	1,819名
ゴンダ バル (Gonda Baru)	1,774名
カイサブ バル (Kaisabu Baru)	56名
合 計	5,500名

チアチア語はインドネシアの国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) と同じくオストロネシア語派に属しており、18個の子音と5個の母音を持っている。韓国語のハングル文字と比べた際にチアチアの最も大きな特徴は、子音に内破音 (implosive) の /β, d/ と /v/ が存在していることと /r/ と /l/ の音が弁別されるということである。

2.2 チアチア語のハングル表記

ハングルによるチアチア語教育のために2009年7月に『**바하사 짜아짜아 1** (Bahasa Cia-Cia 1)』が出版され現地に普及された。『**바하사 짜아짜아 1**』は小学生のために作られたチアチア語のハングル表記のための読み書き中心の教科書である。この教科書が出版されるまではチアチア語教育のための教科書は作られていなかった。そのため、チアチア語が文字言語として教えられることはなかった。音声言語として伝えられてきただけで、文字言語としての記録も全くなく、体系的な正書法も持っていなかったのである。

では、『**바하사 짜아짜아 1**』に基づいてチアチア語のハングル表記正書法についてローマ字表記と対比させながら見ていく。

チアチア語の18個の子音と5個の母音の音価は内破音の /β, d/ と唇歯摩擦音の /v/ の3つを除いてはハングル字母の音価と非常に類似しており、1対1で音価を対応させることができる。インドネシアの公式文字であるローマ字では内破音の /β, d/ を1つの文字で表記することはできなく、2つのローマ字で表記するしかない。

表2 チアチア語のハングル表記体系

(Lee, Chun and Hwang 2010、金 2012 から再引用)

	Bilabial	Labiodental	Alveolar	Velar	Glottal
Plosive	ㅍ [p] ㅂ [b]		ㅌ [t] ㄷ [d]	ㅋ [k] ㆁ [g]	(ㅇ) [ʔ]
Implosive		ㅃ [β]		ㅆ [ɖ]	
Nasal	ㅁ [m]		ㄴ [n]	ㅇ [ŋ]	
Fricative		ㅆ [v]	ㅅ [s]		ㅎ [h]
Affricate			ㅈ [tʃ] ㅊ [tʃʰ]		
Flap				ㄹ [ɾ]	
Lateral Approximant				ㄹ [l]	
Vowel	아 [a], 에 [e], 이 [i], 오 [o], 우 [u]				

しかし、ハングルでは /β/ を /ㅃ/、/ɖ/ を /ㅆ/ に表記することができるとしている。また、唇歯摩擦音の /v/ は現代の韓国語では使われないが訓民正音創製当時は存在していた /ㅆ/ を生かして用いている。(金 2012)

そして、チアチア語には /r/ と /l/ の音価の相違があるのに対して、韓国語では表記上区別しないため、/r/ を /ㄹ/ に、/l/ は /ㄹ/ というふうにより新しい表記法を適用している。また、/ㄹ/ は韓国語では初声では現れないがチアチア語では初声でも現れるため、‘ㅇ’ を /ㄹ/ の初声の発音されない音として用いている。例えば、チアチア語の ‘lima (5つ)’ を ‘을리마’ というふうにより表記する (全 2010)。チアチア語の 18 個の子音と 5 個の母音のハングル表記用例についてそれぞれ表 3 と表 4 で示す。

チアチア語のハングル文字表記とインドネシア公式文字であるローマ字表記の特徴についてまとめると以下ようになる。

- ① /p, t/ と /b, d/ の破裂音の /β, ɖ/ の表記において、ローマ字では対応する

表 3 チアチア語のハングル子音表記用例

(Lee, Chun and Hwang 2010、金 2012 から再引用)

ㅂ	부꾸 (bone), 폼보 (clothes)
ㅃ	빠나끼 (disease), 아빠 (fire)
ㅍ	포파 (mouth), 파에 (rice)
ㄷ	다뿌라 (lake), 도도 (stammerer)
ㅌ	또똥루 (three), 마따 (eye)
ㅍ	타티 (live), 모테아 (red)
ㄱ	가라 (salt), 모짱기 (high)
ㄴ	까테세 (banana), 응까까 (child)
ㅈ	찌아찌아 (Cia-Cia), 바짜 (read)
ㅊ	잠바타 (bridge), 모이조 (green)
ㅇ	붕아 (finger), 방보 (above)
ㅅ	사빠 (ox), 모계사 (good)
ㅎ	호네 (grass), 모하로 (hungry)
ㄹ	루아 (two), 빠라에 (what)
ㅍ	을리마 (five), 살라따 (south)
ㅍ	미나아 (food), 아마 (father)
ㄴ	니빠아모 (when), 이나 (mother)
ㅇ	응오오 (nose), 풀링아 (ear)

表 4 チアチア語のハングル母音表記用例

(Lee, Chun and Hwang 2010、金 2012 から再引用)

ㅏ	아마 (father), 마누 (chicken)
ㅑ	엘라 (tongue), 까계 (foot)
ㅣ	이사 (fish), 이시 (meat)
ㅓ	호네 (grass), 아소 (sell)
ㅕ	우까 (also), 피쭈 (love)

文字がないため、音素と文字の1対1の対応ができないが、ハングルでは/ㅉ, ㅊ/を用い1対1の表記の対応ができる。

- ② 現行のハングル表記では唇歯摩擦音の/v/の表記ができないため、訓民正音制定当時に存在していた/ㅍ/を用いて表記できる。しかし、ローマ字では/v/の音素は存在するので、このような問題は起きない。
- ③ ハングル表記では/r/と/l/の音の区別がないため、/r/は/ㄹ/に表記し、/l/は/ㄹ/を2つ重ねて/ㄹㄹ/を用いて表記することによってその区別に用いる。しかし、現在のハングル表記では/ㄹㄹ/は使われないものである。これに対し、ローマ字表記ではそもそも/r/と/l/の音の区別があるので、表記上の問題は存在しないのである。さらに、韓国語では/l/は初声では現れないため、チアチア語で初声として表記する際には‘ㅇ’をサイレント記号として活用し表記する方法を採択しているが、現行の韓国語表記ではこのような表記法は使われていない。

このようにまとめてみると、チアチア語のハングル表記の必然性と有効性に疑問を抱かざるを得ない。ハングルとインドネシア語およびチアチア語についての対照言語学的研究によって明らかにされるべきであろうが、これまでの先行研究で見限りでは、チアチア語のハングル表記がインドネシア公式文字であるローマ字表記より有効で適合しているという明確な根拠は見当たらない。

さらに、チアチア族はチアチア語固有の文字がないだけで、ほかのインドネシア人同様学校教育を受けており、インドネシア語を使用し文字生活を送ってきているのである。文字生活をしている限り民族語の表記手段がなかったわけではないのである。チアチア族にとってインドネシア語の文字のほかに全く未知の言語を新たに表記文字として習得していくことの必然性は果たしてあるのだろうか。ここ数年、ハングルがローマ字より適度な表記文字であるということでハングル文字をチアチア語の表記文字として採択しようとしてきたのである。次項では、ハングルがチアチア語の表記文字として採択されるようになった経緯について考察する。

2.3 ハングル教育の経緯と現状

チアチア族のハングル採択のきっかけとなったのは、2005年にバウバウ市で行われた国際会議に出席した韓国外国語大学の教授とインドネシア国内での韓流の影響で韓国に対して興味を持っていたバウバウ市の市長の会話であった。市長からチアチア語の死滅危機におかれた現状について聞かされた韓国の教授が、帰国後、ハングル普及の目標を掲げ2007年に創設された「訓民正音学会」にチアチア族を紹介するようになる。「訓民正音学会」の関係者が2008年7月にバウバウ市を訪問しハングル普及の趣旨について説明し、市幹部がチアチア族の長老たちと相談するなどして、「文字があれば若い世代にチアチア語を伝えるのが容易になる」との同意を得、ハングルをチアチア族の表記文字として普及させるようになる（朝日新聞2010/04/23）。

この際、バウバウ市と「訓民正音学会」は「ハングル使用およびハングル教師養成に関する諒解覚書（MOU）」を締結する。また、ソウル市もバウバウ市と2009年末、「文化芸術交流協力に関する意向書（LOI）」を交わし、ソウル市はバウバウ市に文化センターを建てるなど都市開発事業に協力する意思も表明した（**문화일보**2011/10/09）。

2008年12月、訓民正音学会の支援でチアチア族の部族長の息子であるアビディン教諭ら教師2名がソウル大学に留学し、6ヶ月間韓国語の研修を受け2009年7月からバウバウ市で韓国語教育が開始される。現地のハングル教員であるアビディンによると193名の小学生がチアチア語をハングルで学んでいるという。

表5 チアチア語学習者数（Abidin2010、金2012から再引用）

学校名	学級		学生数
	4年生	5年生	
カルヤバル国立初等学校	72名	50名	122名
ブギ第1国立初等学校	45名		45名
ブギ第2国立初等学校	26名		26名
合 計			193名

2010年、韓国の「訓民正音学会」からハングル教師が1年間派遣されるようになり、第1高等学校、第2高等学校などへと韓国語教育を受ける学生と学校の数が徐々に増えていった。しかし、韓国人教師が2011年初めに韓国へ帰国した後は、現地のアビディン教師が1人で2011年10月までハングル教育をしてきたのである（한겨레신문 2011/11/28）。

2012年1月に、韓国の文化部和韓国語世界化財団が韓国語教育のために世界各地に設立する韓国語教育機関である「세종학당（世宗学堂）」がブトン大学内で設置されることによって数か月の間中断していた韓国語教育が再開されるようになる。しかし、「세종학당」も運営上の財政的問題によって、8月末で韓国人派遣教員も含め完全に撤収してしまうことになり、バウバウ市におけるハングルおよび韓国語教育は再度中断される状態になる。

「세종학당」撤収とともに、“チアチア族はハングルをチアチア語の公式文字として採択したことがない”との報道もなされるようになる。チアチア族の公式文字としてのハングル採択の問題については3章と4章で韓国マスコミの報道内容とインドネシアの言語政策を合わせて考察することによって考えていくことにする。

3. チアチア族のハングル採択と韓国のマスコミ報道

チアチア族にチアチア語教育のためにハングルで作られた教科書が編纂され、ハングルによるチアチア語教育がなされたのは2009年7月である。それから3年ほど経つ2012年10月9日（ハングルの日）を前後していくつかの新聞で「チアチア族はハングルを公式文字として採択したことがない」との報道がなされた。

한국경제（韓国経済2012/10/8）新聞によると「세계 최초로 한글을 공식표기문자로 채택한 것으로 알려진 인도네시아 짜아짜아족에 대한 한글 보급이 큰 위기를 맞았다. 특히 짜아짜아족은 한글을 공식문자로 채택한 적도 없는 것으로 알려졌다. 그동안 정부는 각종 자료를 통해 인도네시아 정부가 짜아짜아족의 한글 사용을 공식 승인했다고 발표해 왔다.（世界で最初にハングルを公式文字として採択したことで知られたインドネシアのチアチア族に対するハングル普及が大きな危機を迎

えている。特にチアチア族はハングルを公式文字として採択したこともないことが知られるようになった。これまで政府は各種資料を通してインドネシア政府がチアチア族のハングル使用を公式承認したと発表してきた。著者訳」

このような報道について政府関係者は「**인도네시아 술라웨시주 부톤섬 바우바우시가 처음 한글을 도입할 당시 ‘공식 도입’ 인 것처럼 알려졌지만 한글 도입을 주도한 아미를 타임 시장이 이후 한국을 방문해 ‘중앙 정부에 한글 공식 채택을 요청한 적이 없고 앞으로도 그럴 계획은 없다. 인도네시아의 공식 언어는 따로 있어 공식 허가를 받는 것은 불가능하다’ 고 밝혔다**」고 말했다。(「インドネシア・スラウェシ州ブトン島バウバウ市が初めてハングルを導入した当時 ‘公式導入’ であると知られていたが、ハングル導入を主導したアミールタイム市長が後で韓国を訪問し ‘中央政府にハングルの公式採択を要請したことはなく、これからもそういう計画はない。インドネシアの公式言語は別にあって公式許可を得ることは不可能である’ と明かした」と述べた。) (韓国経済新聞 2012年10月8日)

では、実際、これまでチアチア族のハングル採択をどのように報道してきたのか、新聞報道を中心にその報道内容をより詳しく見てみよう。まず、チアチア族がハングルの公式表記文字として採択したと報じている記事から見ていく。

① 2009年10月9日、**중앙일보** (中央日報)

8월초 이곳 짜아짜아족이 한글을 부족 공식 표기어로 채택한 이후 한글은 이들에게 ‘꿈’ 과 ‘희망’ 이 되고 있다. (8月初めここチアチア族がハングルの部族公式表記語として採択した以降ハングルはこの人たちに ‘夢’ と ‘希望’ になっている。)

② 2009年9月、**문학사상** (『文学思想』)

지난 8월 6일 훈민정음학회는 인도네시아 소수민족 짜아짜아족이 한글을 공식 표기문자로 선정했다고 발표했다. (先月8月6日訓民正音学会はインドネシア少数民族チアチア族がハングルの公式表記文字として選定したと発表した。)

③ 2012年10月9日、**동아일보** (東亜日報)

세계 최초로 한글을 공식 표기문자로 도입했던 인도네시아 소수민족 짜아찌아족. (世界で最初にハングルを公式表記文字として導入したインドネシア少数民族チアチア族。)

④ 2012年10月9日、Daily UNN

세계에서 처음으로 한글을 공식 표기문자로 도입했던 인도네시아 바우바우 시에서 한국어 교육 기관과 한국인 교사가 철수했다. (世界で初めてハング를을公式表記文字として導入したインドネシアのパウパウ市で韓国語教育機関と韓国人教師が撤収した。)

日本の新聞においてもチアチア族のハングル導入についての次のような報道が見られる。

「インドネシア東部の島に住み、文字を持たなかった少数民族チアチア族が民族語の表記に朝鮮半島の文字ハング를을公式に採用し、学校で教え始めた。」

(朝日新聞 2010/04/23)

ほとんどの新聞がチアチア族にとってハングルは公式表記文字として採用されたと報道しており、筆者が調べた中で「公式性」を言及していないのは以下の2つの報道のみである。

① 2011年11月28日、한겨레 신문 (ハンギョレ新聞)

생경한 문자인 한글로 낙서를 하고 가르쳐주기도 하는 일상은 2009년 7월 짜아찌아족이 한글을 표기문자로 도입하자 생긴 변화다. (生硬な文字であるハングルで落書きをしたり教えたりする日常は2009年7月チアチア族がハング를을表記文字として導入した後生じた変化である。)

② 2012年10月10日、서울신문 (ソウル新聞)

우리나라를 빼고는 세계에서 처음 한글을 자국어 표기 문자로 채택했던 인도네시아 소수민족 짜아찌아족의 거주지에서 한국어 교육기관과 현지 유일의 한국인 교사가 모두 철수한 것으로 확인됐다. (我が国を除いて世界で初めてハング를을自国語表記文字として採択したインドネシア少数民族チアチア族の居住地で韓国語教育機関と現地有一の韓国人教師が全員撤収した

と確認された。)

これらの新聞報道からチアチア族がハングルを導入した2009年当時から2012年現在に至るまでハングルがチアチア族の公式表記語として採択されたと報道されていることが分かる。

4. インドネシアの言語政策

チアチア族のハングル表記をめぐり、これまで文字のなかったチアチア族が公式文字として導入したという報道がなされてきたが、本項ではインドネシアの言語政策について考察し、ハングル文字の公式文字としての導入可能性について考えてみる。

インドネシアの1970年代中盤からこれまでの言語政策は、多民族、多言語、多文化の国として国家統合を最優先したもので、国家語であるインドネシア語中心の教育で地方語についての教育は積極的になされてこなかった。1975年の新教科課程の導入により小学校にける地方語教育が中断されインドネシア語が教育されるようになった。1989年小学校の地方語教育が復活されたものの、1992年英語教育を強化する教育文化部長官の決定書によって地方語教育は再度衰退するようになる。国家語のインドネシア語の使用強化を進めてきた言語政策はチアチア語のような地方語の衰退を招いたのである(全2010)。

次に、憲法に明示されている国家語と地方語の位置づけについて見てみよう。憲法第15章、第36節には“国家語はインドネシア語 (Bahasa Indonesia)”と規定されており、国家語としての法的機能と地位を憲法に明示しているのは、多民族、多言語、多文化の複雑性を反映した国家統合イデオロギーを反映したものである(全2010)。

一方、インドネシア憲法には地方語を“民族文化財”として規定し、“国家は民族文化財である地方語を尊重し保存する”と明示されている。2009年法律第24号には国家語と地方語の振興と保存に関する規定もある。“政府は国家の時代的発展

に添うインドネシア語・文学の地位そして機能を堅持するためにインドネシア語・文学を発展、振興、保存する義務がある”と明示されている。一方、地方語について“地方政府は社会の時代的发展に添う地方語・文学の地位と機能を堅持し、インドネシア文化財の一部として持続的に保存するために地方語・文学を発展、振興、保存する義務がある”と明示されている。

また、地方政府の地方語・文学の振興と保存のための方法についての前提規定も“言語政策機関との協調と中央政府諸般規定の遵守”となっている。地方語や文学の発展、振興、保存は地方政府の義務であるが、その義務移行は中央政府と言語政策機関との協調と規定に拘束されるとしている（金 2012）。

このようなインドネシアの言語政策の下でインドネシア国民は、インドネシア語の文字であるローマ字を公式文字として使わなければならないのは明白なことである。その上、いくら地方自治権があるとしても地方語の政策に関しては中央政府の規定を遵守しなければならないことを併せて考えるとチアチア語の公式文字としてハングル文字が正式に導入されることは現下の法律では不可能なことである。

そして、バウバウ市のタミム市長の Korea Times (2010/10/07) とのインタビューにおいてもハングル文字の公式文字としての導入は明確に否定されている。

“I have neither asked the central government’s approval nor plan to make such a request in the future,” he told The Korea Times at a linguistics symposium at Seoul National University, Thursday.

“It is not possible to receive official acknowledgement for the adoption of Hangeul from the Indonesian government as Bahasa Indonesia is the official language.”

He noted that he respects Indonesia’s one-people, one-language policy.

5. おわりに

これまでチアチア族の固有語であるチアチア語の表記文字として韓国語の固有文字であるハングルが採択された経緯やそれに伴う韓国語教育の現状について調べて見た。チアチア語の表記文字としてハングルが採択されたのは、ハングル借用を通じた地域開発を念頭に置いたバウバウ市の地方自治政府とハングルの普及を目指している学会関係者および韓国政府の合意によるものであったように思われる。その過程でメディアによる過剰な報道はインドネシアと韓国政府の間でハングル導入に対する混乱を来すこともあった。特にチアチア族の公式文字としてハングルが採択されたとする報道は現実のインドネシアの言語政策や法律についての実状を度外視した内容であったと言わざるを得ない。また、異民族によるハングルの公式文字としての採択は、韓国語の使用者である韓国国民にとっても大きな喜びであったことを考えると、公式文字としての導入ではなかったという事実は大変な失望感を与えるものである。

チアチア語は、インドネシアの1970年代以降のインドネシア語と英語中心の言語政策の下でますます使用者人口が減ってきており、死滅の危機に瀕している言語である。インドネシア国内の言語政策の問題以前に、世界の言語生態系を考えてもチアチア語のような少数民族の言語を守ることは至急の課題であり、その方便として韓国語のハングルが何らかの形で役に立つことは大変有意義なことである。しかし、今回のような本来の目的と異なる内容が一般世間を賑わすなどの不協和音は決して良いものではない上に、言語生態系保存に一助するという趣旨とも合致しないものである。これからのチアチア族に対するハングル文字普及は、外国語としての韓国語教育を積み重ね、その結果としてチアチア族が自ら自分たちの言葉を表記する手段としてハングルを選ぶ際に手助けをする意味で展開されるべきであろう。

今回のチアチア語のハングル表記をめぐることは上述したように問題点はあったが、インドネシアの少数言語、特にチアチア語の現状を対外的に知らせることができたことと、チアチア族が自分たちの民族語の保存を意識する大きなきっかけを

作ったことは確かなことである。まずは、中断されている韓国語教育の再開を目指して努力し、その後、チアチア語表記のハングル文字の適合性をさらに検証していくべきであろう。

主な参考文献

<図書および学術論文>

- 강성욱 (2009) 印尼 짜아찌아족 한글 표기문자 채택 1년의 기록: MOU 체결후 1년간 대의 비밀로 철저한 준비: 문화우월주의 경계, 향후 5년간 현지화 여부가 관건, 『문학사상』 제 38 권 제 9 호 통권 443 호
- 김보경 (2012) 『한글 국제화 사례연구: 짜아찌아어 표기 사례를 중심으로』, 서울 교육대학교 교육대학원 국내석사
- 이슬기 (2011) 위기에 빠진 짜아찌아 한글 교육: 한글을 표기문자로 도입한 지자체장 임기는 끝나가고 중앙정부는 언어정책 거스른다 비판 한국의경제적 지원 바라지만, 외교 문제 때문에 돕기도 힘들어, 『한겨레 21』, 통권 887 호
- 이호영, 황효성, 아비던 (2009) 『바하사 짜아찌아 1』, 서울: 훈민정음학회
- 인니훈민정음학회 (2011) 『바하사 짜아찌아 1』, 한국어 번역본, 신명시스템즈
- 전태현 (2010) 인도네시아의 언어정책, 『한국언어문화학』, 제 7 권 제 2 호
- 정덕영 (2011) 『짜아찌아 마을의 한글 학교』, 파주: 서해문집
- Tai-Hyun Choi (2011) 짜아찌아 문법 기술과 교육의 필요성, 『외국어교육연구 Studies in foreign language education』, 제 25 권 제 1 호

<映像資料>

- (한글날 특집) 짜아찌아족 한글 도입 2년, 그후 [비디오 녹화 자료] / EBS
- 용감한 형제 인도네시아 모험기, 14 부 [비디오 녹화 자료] / EBS
- 우린 한글을 써요, 짜아찌아族의 부튼심을 가다 [비디오 녹화 자료] / KBS Media

<新聞資料>

- 투데이코리아 2012,10,09 세종학당 철수, 짜아찌아 마을 한글 사라지나..
- 동아일보 2012,10,09 짜아찌아 마을엔 가나다라... 소리 끊기고
- 중앙일보 2009,10,09 한글 만난지 두 달...짜아찌아 아이들 꿈이 생겼어요
- 朝日新聞 2010,04,23 ハングルで守る民族語—インドネシア・文字なき「チアチア族」
- Korea times 2010, 10, 07 Indonesian gov't didn't approve Hangeul as official writing

巖：インドネシアのチアチア族へのハングル文字普及について

system

Daily UNN 2012. 10. 09 한글날 566 돌, 한글 현주소는?

NEWDAILY 2012.10.09 [심재윤 칼럼] 한글 보급, 정책방향 바뀌어야 한다. 찌아찌아족 한글보급 어려울 수 밖에 없었다.

서울신문 2012.10.10 印尼 찌아찌아족 세종학당 자금난 7 개월 만에 철회

<인터넷資料>

http://blog.daum.net/_blog/hdn/ArticleContentsView.do?blogid= URov&artcleno=3